

取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレス受信機

品番 **WX-UR502**
WX-UR504



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(P. 4～5 ページ) を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機は、800 MHz帯ワイヤレス受信機です。

- 本機はダイバシティ方式を採用しており、 α 、 β のアンテナによって、電波の受信を確実にしてデッドポイントを低減します。
- 工場出荷時には、ワイヤレスチューナーユニットが装着（WX-UR502：1台、WX-UR504：2台）されています。
- 別売品である専用のワイヤレスチューナーユニットWX-UD500を増設（WX-UR502：1台まで、WX-UR504：2台まで）することができます。
- 受信レベル表示機能、スキャン機能、スケルチ解除機能を搭載し、設置したシステムの受信環境を確認することができます。
- ワイヤレスマイクロホンで使用中の電池残量状態を表示させることができます。
- 各ワイヤレスチューナーユニットごとに受信するグループおよびチャンネルを表示灯で表示します。グループおよびチャンネルは、設定ボタンを操作することにより変更できます。
- 受信機本体から α 、 β 各2台のアンテナ感度をリモートコントロールすることができます。
- 待機時混信低減機能、受信時混信低減機能を搭載し、外部からの混信を低減できます。

付属品をご確認ください

大型複式プラグ.....	1本	ラックマウント取り付けねじ（M4×10）.....	4個
15波用対比表ラベル.....	1枚	取扱説明書（本書）.....	1冊
ラックマウント金具.....	2個	保証書.....	1式

免責について

弊社はいかなる場合でも以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の故意や誤使用、不注意による損害または本商品の破損など
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
- ⑦登録した情報内容が何らかの原因により消失してしまうこと

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

もくじ

はじめに

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
著作権について	2
安全上のご注意	4
取り扱い上のお願い	6
使用上のお願い	6
各部の名前とはたらき	7
前面パネル	7
後面パネル	8

工事説明

設置のしかた	9
設置上のお願い	9
ラックへの取り付けかた	10
チューナーユニットの組み込みかた	10
接続のしかた	11
接続について	11
2チャンネル（4チャンネル）ダイバシティ受信方式の場合	11
各チャンネル出力およびミキシング出力の場合	12
設定のしかた	13
設定上のご注意	13
フィールド・アンテナ感度を設定する	13
グループ・チャンネルを設定する	14
操作ロックを設定する	16
マイク電池電圧を表示する	17
待機時混信低減機能を設定する	18
受信時混信低減機能を設定する	19
受信レベルを確認する	20
受信状況を確認する（スキャン機能）	22
スケルチを一時的に解除する	23
工場出荷設定に戻す（メモリークリア機能）	24

使いかた

使いかた	25
操作のしかた	25
マイク電池残量を確認する	26

必要なとき


多チャンネル運用について	27
アンテナ用フィルターについて	29
故障かな!?	29
仕様	30
保証とアフターサービス	31


安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。


■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

 **注意** 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。


■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

    してはいけない内容です。

 実行しなければならない内容です。


警告

工事は販売店に依頼する

 工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。


- 必ず販売店に依頼してください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。


- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

取り付けねじは、しっかりとしめる


 落下などで、けがの原因となります。

- 取付工事は販売店に依頼してください。


湿気やほこりの多い場所に設置しない

 火災や感電の原因となります。
禁止


取り付けは、必ず本機の電源を切ってから行う

 感電の原因となります。


不安定な場所に置かない

 落下や転倒によるけがや事故の原因となります。
禁止


電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く

 コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

 感電の原因となります。
ぬれ手禁止

振動や強い衝撃を与えない

 火災や感電の原因となります。
禁止

警告

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因となります。

- 修理や点検は、販売店に依頼してください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねる など)



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。

- コードやプラグの修理は販売店に相談してください。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、においがする、外部が劣化するなど、そのまま使用すると火災・落下によるけが、器物損壊の原因となります。

- 放置せずに直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

雷のときは工事、配線をしない



禁止

火災や感電の原因となります。

注意

コネクタの抜き差しは電源を切ってから行う



クリック音でスピーカーが破損する恐れがあります。

取り扱い上のお願ひ

⚠ 警告 ⚠ 注意 に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

使用上のお願ひ

本機は屋内専用です

- 水滴または水しぶきのかからない状態で使用してください。花瓶などの液体の入ったものを機器の上に置かないでください。

使用温度範囲は

- 0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

電源について

- ご使用の電源は、AC100V(50Hz／60Hz)です。ご使用後は、必ず電源スイッチを「切」にしてください。
- 電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合は、コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。また、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

ワイヤレスマイクについて

- ワイヤレスマイクの周波数は、受信機の周波数と合わせて使用してください。
- ワイヤレスマイクとワイヤレスマイクの間は、50cm以上離してご使用ください。
- ワイヤレスマイクとアンテナの距離は、到達距離の最小値以上(☞13ページ)離してご使用ください。近づきすぎると、混信を起こします。
- アンテナWX-4950A、4965、4970とワイヤレス受信機WX-UR502、WX-UR504でシステムアップし、ワイヤレスマイクrohonWX-3100、3200、3300、3400、3500のB11とB12またはB31とB32を使用すると、混信する場合があります。

ワイヤレスマイクの電池電圧・残量表示について

- ワイヤレスマイクとアンテナの距離が離れると、受信電波が低下し、ワイヤレスマイクから送られてくる電池電圧および残量のデータが読み取れない場合があります。これらの表示機能は、電波を安定して受信できる範囲内でご使用ください。ワイヤレスマイクからアンテナまでの距離(電波の到達距離)については、「フィールド・アンテナ感度を設定する」(☞13ページ)をお読みください。

ノイズについて

- 電灯器具などの電気機器の電源を入／切する際に発生するノイズの影響で、受信機から大きなノイズ音が発生する場合があります。また、蛍光灯やOA機器、監視カメラ、業務用カメラなどもノイズ源となります。以下に示す処置を行うことにより、ノイズ音を低減できます。
 - ノイズ源(電源スイッチで電源を入／切する機器および電源用のケーブル)からワイヤレス機器および同軸ケーブルを遠ざける。
 - 専用のアンテナ用フィルター(別売品)を併用すると効果的です(☞29ページ)。

電源スイッチを入／切するときは

- パワーアンプや周辺機器の電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーや周辺機器を破損する恐れがあります。

長期間使用しない場合は

- 電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

結露について

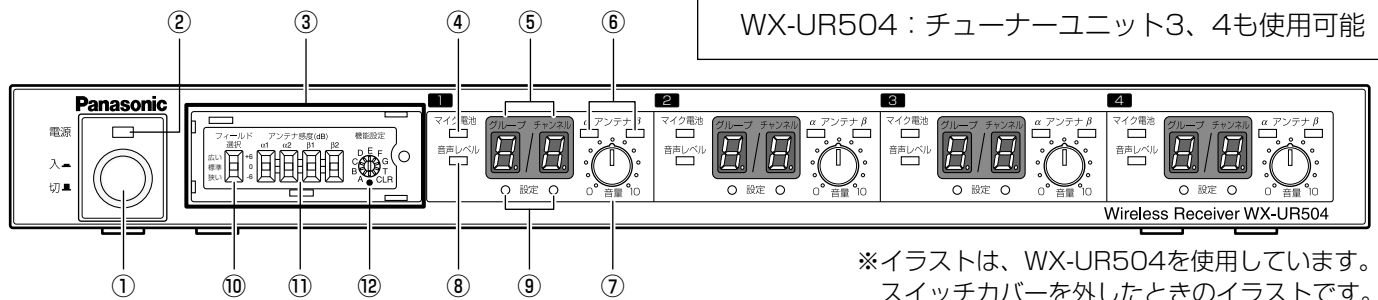
- 結露は、故障の原因になりますので注意してください。
- 結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

お手入れは

- 電源を切ってから行ってください。けがの原因になります。
- お手入れは必ず乾いたやわらかい布をご使用ください。
- シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

各部の名前とはたらき

前面パネル



※WX-UD500（別売品）を増設することにより、
WX-UR502：チューナーユニット2も使用可能
WX-UR504：チューナーユニット3、4も使用可能

※イラストは、WX-UR504を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

①電源スイッチ【電源入／切】

- 電源を入／切します。押し込んだ状態が「入」です。
- 電源スイッチを「切」にしても、わずかに電力を消費します。

②電源表示灯

- 電源スイッチを「入」にすると、点灯します。

③スイッチカバー

- ねじをゆるめて、スイッチカバーを外すと、内部に本機を調整するためのスイッチ（⑩～⑫）があります。通常は取り付けたまご使用ください。

④電池残量表示灯【マイク電池】

- マイクロホンから送られてくる電池残量データを受信すると点灯（緑色／橙色／赤色）します。（※26ページ）

⑤グループ／チャンネル表示灯

【グループ／チャンネル】

- 受信するグループ／チャンネルを表示します。

⑥受信表示灯【アンテナα、β】

- アンテナから電波を受信すると点灯します。

⑦音量調節つまみ【音量0、10】

- 好みの音量に調節できます。

⑧音量表示灯【音声レベル】

- 受信中のマイクロホンの音声出力レベルによって点灯（緑色／橙色／赤色）します。
出力なし～-46 dB：消灯
-46 dB～-16 dB：緑色に点灯
-16 dB～-6 dB：橙色に点灯
-6 dB～過大出力時：赤色に点灯

⑨グループ／チャンネル設定ボタン【設定】

- 受信するグループ／チャンネルを変更する際に押します。
工場出荷設定：グループ1、チャンネル1

⑩フィールド選択スイッチ（スイッチカバー内）

【フィールド選択 広い／標準／狭い】

- アンテナの受信するフィールドの大きさ（感度）をリモートコントロールします。（※13ページ）
工場出荷設定：標準

⑪アンテナ感度スイッチ（スイッチカバー内）

【アンテナ感度（dB）+6／0／-6 α1、α2、β1、β2】

- 各アンテナの感度を選択します。使用する同軸ケーブルの種類や長さによって、アンテナ感度をリモートコントロールします。（※13ページ）
工場出荷設定：0

⑫機能設定ロータリースイッチ（スイッチカバー内）

【機能設定 ●、A、B、C、D、E、F、G、T、CLR】

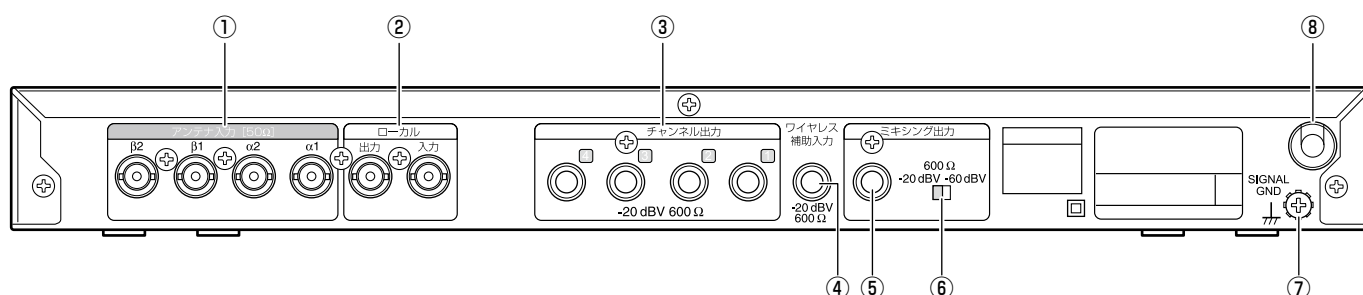
- 本機のさまざまな機能の設定を行うためのモードを切り換えます（※14～24ページ）。
- 本スイッチを操作すると、組み込まれているチューナーユニットのモードがすべて連動して切り換わります。

ポジション	モード
●	通常運用モード 通常はこのポジションで使用してください。
A	操作ロック設定モード
B	マイク電池電圧表示モード
C	待機時混信低減設定モード
D	受信時混信低減設定モード
E	受信レベル表示モード
F	スキャンモード
G	スケルチ解除モード
T	テストモード メンテナンス時に使用します。
CLR	メモリークリアモード

工場出荷設定：●

各部の名前とはたらき（つづき）

後面パネル



※イラストは、WX-UR504を使用しています。

①アンテナ入力コネクター

【アンテナ入力 [50Ω] $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ 】

- ワイヤレスアンテナまたはワイヤレス混合分配器からの同軸ケーブルを接続します（すべて別売品）。

②ローカル入出力コネクター【ローカル 出力／入力】

- 本機を増設するときを使用します。

③チャンネル出力ジャック

【チャンネル出力 -20 dBV 600 Ω 】

- 各チューナーユニットの音声を個別に出力します。
WX-UR502：2端子
WX-UR504：4端子

④ワイヤレス補助入力ジャック

【ワイヤレス補助入力 -20 dBV 600 Ω 】

- 本機を増設するときを使用します。

⑤ミキシング出力ジャック【ミキシング出力】

- 各チャンネル出力をミキシングした出力が得られます。

- ⑥出力レベル切換スイッチで出力レベルを切り換えできます。

※ミキサーなど接続機器の入力ジャックに接続する場合

-20 dBV→接続機器側のライン入力ジャック

-60 dBV→接続機器側のマイク入力ジャック

- ワイヤレス受信機を増設するときにも使用します。

⑥出力レベル切換スイッチ

【600 Ω -20 dBV / -60 dBV】

- 接続機器に合わせて、ミキシング出力の出力レベルを切り換えます。

⑦SIGNAL GND端子【SIGNAL GND】

- 他機器との電位差をなくすため、各機器のSIGNAL GNDと接続します。

⑧電源コード

- AC100V 50 Hz / 60 Hz

- 電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

(1) 電源制御ユニット（WU-L61、WU-L62、WU-L67）を介して接続する。

(2) 電源コンセントの近くに本機を設置し、遮断装置（電源プラグ）に容易に手が届くこと。

(3) 3.0 mm以上の接点距離がある分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用する。

設置のしかた

設置上のお願ひ



- 工事は必ず販売店に依頼してください。
工事を行う前に、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

工事は電源を入れないで行ってください

- 工事は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また本機に接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

以下の場所には設置しないでください

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 傾斜のある場所

雑音源を避けてください

- 電灯線などの雑音源に同軸ケーブルや電源ケーブル、音声ケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

横置き（水平）にしてください

- 縦置きや傾けて設置しないでください。故障の原因となります。

ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ずEIA規格相当のラック（奥行き450 mm以上）をご使用ください。
- ラック内の温度が+45℃を超えないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- 本機は、できるだけラック下側に取り付けてください。

アンテナは

- アンテナはダイバシティ方式で受信可能なように必ず α 系、 β 系各1本以上で計2本以上、偶数本で使用してください。
- 確実に受信するために、アンテナはワイヤレスマイクから直視できる位置に設置してください。アンテナ付近に障害物があると、到達距離が短くなる場合があります。

近くの妨害電波について

- 近くに別のワイヤレスシステムや、高周波を使う機器がないことを確認してください。やむをえず妨害電波の近くで使用する場合は、周波数が重複しないようにチャンネルプランを策定するか、またはワイヤレスマイクとアンテナの距離（到達距離）を短くしてご使用ください（到達距離は雑音源の大きさにより左右されます）。また、テレビ局や携帯電話基地局などから強い電波が出ている場合にも、到達距離が短くなる場合があります。

電源について

- 本機は、コンセントや電源制御ユニットに容易に手が届く場所に設置してください。

接続について

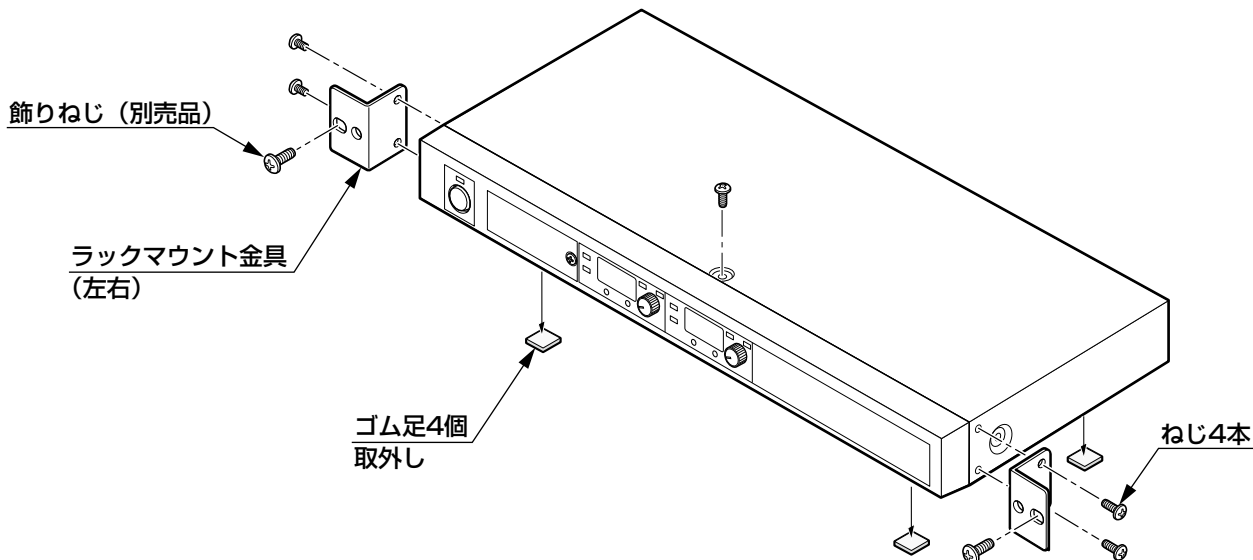
- 本機に接続するアンテナは、WX-4950A / WX-4965 / WX-4970です。ワイヤレス混合分配器は、WX-4910です（すべて別売品）。

設置のしかた (つづき)

ラックへの取り付けかた

本機をEIA規格相当のラックに取り付けることができます。

※イラストは、WX-UR502を使用しています。



STEP1

ゴム足 (4個) を外します。

STEP2

付属のラックマウント金具を付属のねじ (4本) で取り付けます。

※ねじ締め付けトルク：1.37 N・m

STEP3

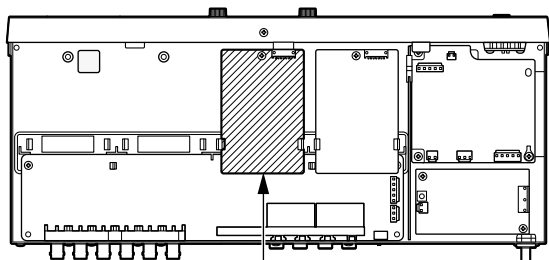
ラックに取り付けます。

チューナーユニットの組み込みかた

- 本機に増設用チューナーユニット (WX-UD500、別売品) を組み込む場合は、受信機内部の以下の位置に組み込みます。
- 詳細については、増設用チューナーユニットの取扱説明書をお読みください。

●WX-UR502の場合

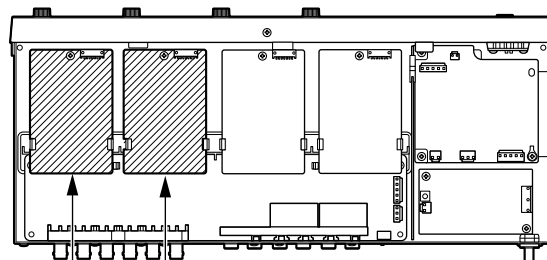
※工場出荷時はWX-UD500が1台装着済みで、最大2台まで装着することができます。



チューナーユニット組み込み位置

●WX-UR504の場合

※工場出荷時はWX-UD500が2台装着済みで、最大4台まで装着することができます。



チューナーユニット組み込み位置

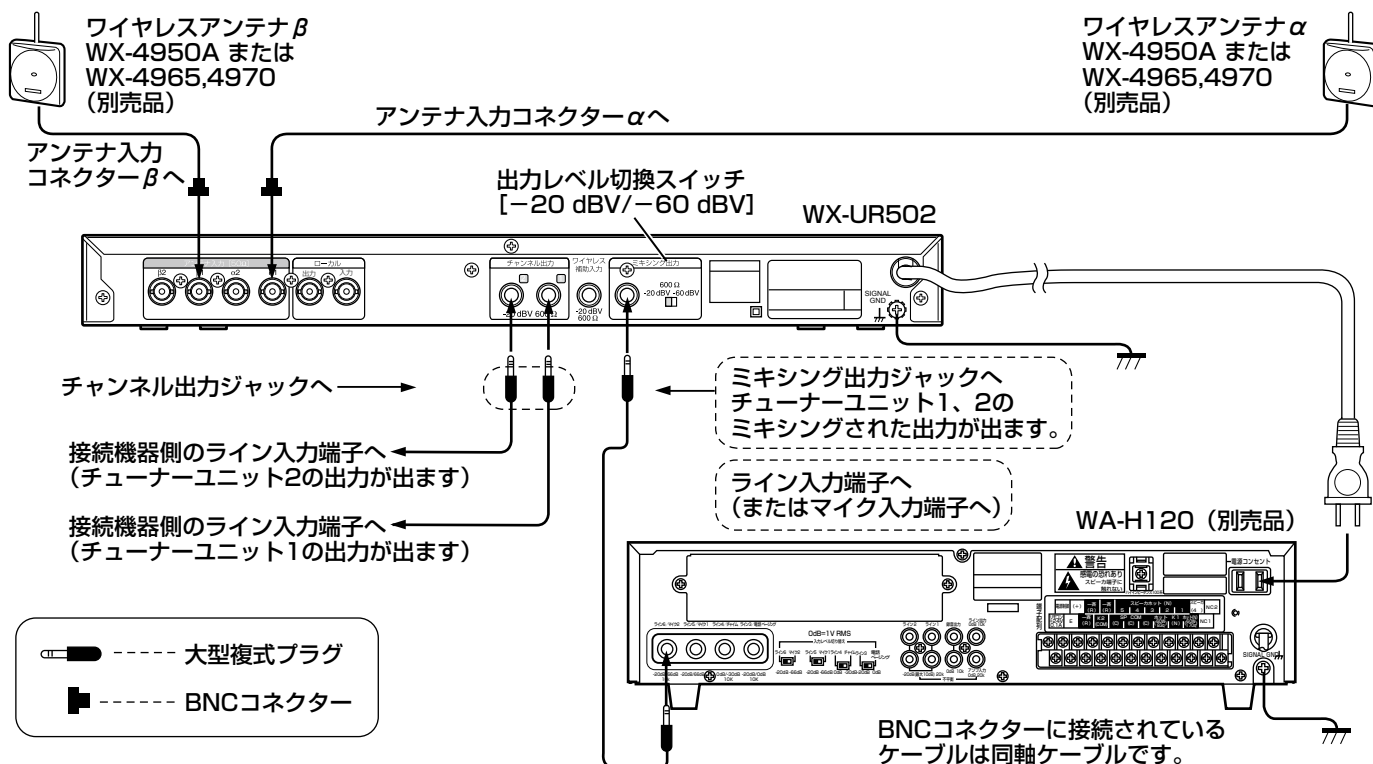
接続のしかた

接続について

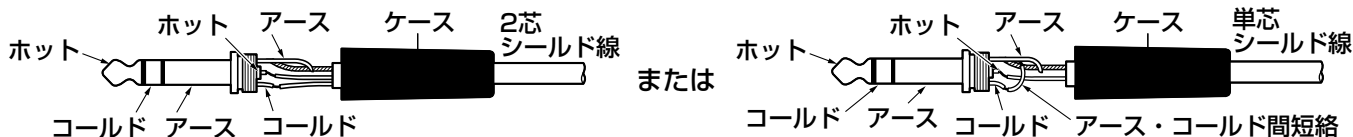
- 同軸ケーブルによる高周波信号の通過損失は、アンテナから受信機（または分配器）までの合計で8 dB以内（260 MHzにて）としてください。同軸ケーブルを中継する場合、1中継あたりの通過損失は約1 dBです。
- 同軸ケーブルの変換や中継を行う場合、必ずBNCコネクタやN型コネクタなどの高周波用コネクタを使用してください。コネクタを使用せず同軸ケーブルを直接接続すると、受信感度の大幅な低下や混信、ノイズの発生などが起こることがあります。
- 同軸ケーブルを中継する場合は、ケーブル長の最大が1中継あたり10%短くなります。
- 低損失タイプの同軸ケーブルを使用する場合は、専用コネクタになる場合がありますので、ご使用になるケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- BNCコネクタと同軸ケーブルの処理は、専用圧着工具などを使用し、確実に行ってください。
- 太い同軸ケーブル（10D-SFA、12D-SFA等）は機器への接続が困難なため、長さ1mほどの細い同軸ケーブル（5D-2V等）に変換してください。
- 受信機を複数台使用する場合は、混合分配機（WX-4910）の取扱説明書をお読みください。

2チャンネル（4チャンネル）ダイバシティ受信方式の場合

WX-UR502を1台使用した例です。4チャンネルの場合はWX-UR504を使用します。



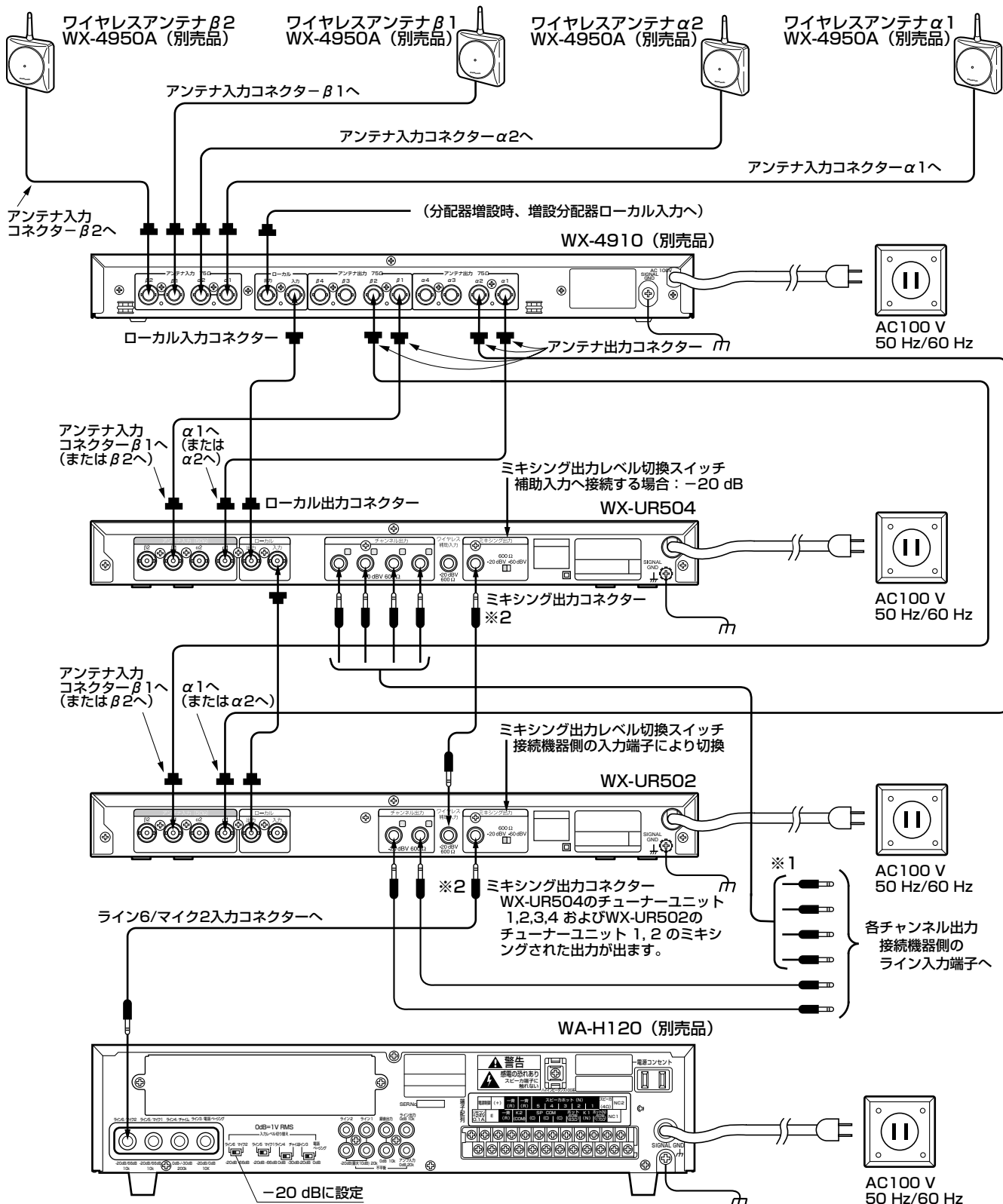
- 同軸ケーブルは同じ種類を必ずご使用ください。
- アンテナはα、β各1本ずつ、計2本以上偶数本必要です。
- 終端抵抗は接続しないでください。過電流により、機器が故障します。
- 付属品の複式プラグと音声ケーブルは下図の通り接続してください。



各チャンネル出力およびミキシング出力の場合

WX-4950Aを4本、WX-4910、WX-UR502、WX-UR504をそれぞれ1台使用した例です。

工事説明



……大型複式プラグ
 ……BNCコネクタ

BNCコネクタに接続されているケーブルは同軸ケーブルです。

※1 各チャンネル出力の場合の接続
 ※2 ミキシング出力の場合の接続

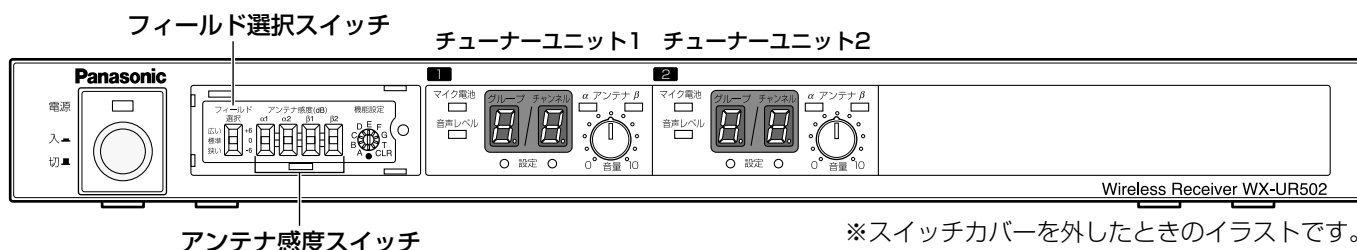
設定のしかた

設定上のご注意

- 同時に使用するワイヤレスマイクは、すべて同じグループとし、そのグループの中ですべて異なるチャンネルに設定してください（同グループ、異チャンネル）。
- 1本のワイヤレスマイクに対し1台のチューナーユニットで受信するように設定してください。複数台のチューナーユニットが同グループ・同チャンネルに設定されると、ノイズの原因になります。
- B型ラムサのワイヤレスマイクとB型パナソニックのワイヤレスマイクは、トーン周波数が異なるため共用できません。
- 次の使用条件下で十分に注意して使用した場合は、7波使用も可能です。
 - ・ワイヤレスマイクと受信機間およびワイヤレスマイクとアンテナ間を5 m以上離す。
 - ・ワイヤレスマイクとワイヤレスマイクの間は、50 cm以上離す。
 - ・隣り合った部屋ではワイヤレスマイクを使用しない。
 - ・受信機および混合分配器のフィールドスイッチのポジションを「標準」または「狭い」に設定して使用する。

フィールド・アンテナ感度を設定する

- アンテナの受信するフィールドの大きさと、各アンテナの感度を個別に設定します。
- アンテナ感度は、各アンテナを直接接続した受信機のアンテナ感度スイッチで設定します。



スイッチカバー内のフィールド選択スイッチ、アンテナ感度設定スイッチを設定します。

- 下表を参考に、それぞれのスイッチを設定してください。

使用場所（参考例）			校庭	体育館	教室	パチンコ店	会議室	宴会場	カラオケルーム
使用範囲 アンテナマイク間の距離	最大	100 m	30 m	20 m	15 m	15 m	20 m	8 m	
	最小	15 m	3 m	2 m	2 m	2 m	2 m	1 m	
同軸ケーブル 30 m以内	フィールド選択スイッチ	広い	●						
		標準		●		●	●		
		狭い			●			●	
アンテナ感度スイッチ	+6 dB								
	0 dB	●	●	●					
	-6 dB				●	●	●	●	
推奨同軸ケーブル		※5D-2V							

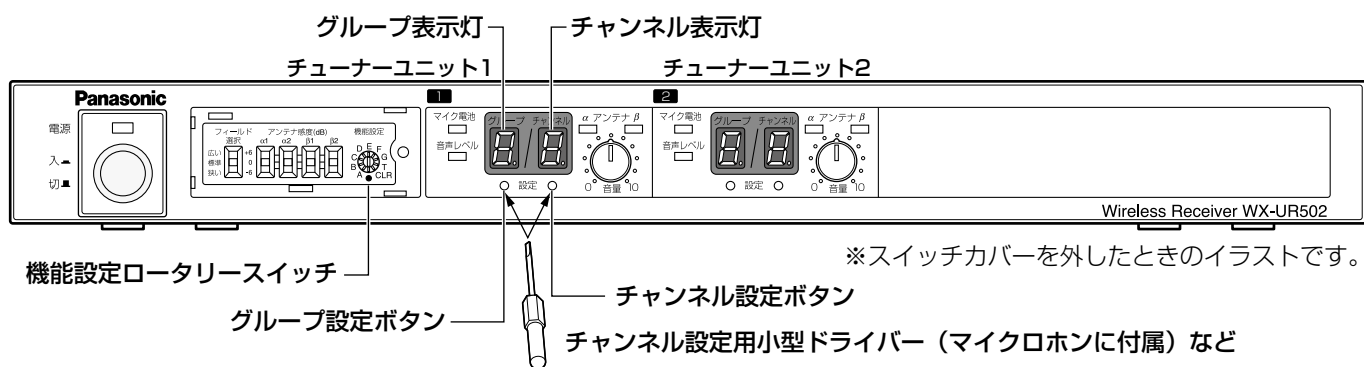
設定のしかた (つづき)

使用場所 (参考例)		校庭	体育館	教室	パチンコ店	会議室	宴会場	カラオケルーム
同軸ケーブル 80m以内	フィールド選択スイッチ	広い	●					
		標準		●		●	●	●
		狭い			●			
	アンテナ感度スイッチ	+6 dB	●	●	●			
		0 dB				●	●	●
		-6 dB						
推奨同軸ケーブル		※5D-2V						

メモ

- 実動作試験により音切れが多く発生する場合は、アンテナ感度スイッチを1ポジション上げてください。
[例] -6 dB→0 dB
- アンテナ感度スイッチが「+6 dB」のポジションにあり、それ以上上げられない場合はフィールド選択スイッチを1ポジション上げ (狭い→標準、標準→広い)、アンテナ感度スイッチで調節してください。
- アンテナWX-4950A、4965、4970とワイヤレス受信機WX-UR502、WX-UR504でシステムアップし、ワイヤレスマイクロホンWX-3100、3200、3300、3400、3500のB11とB12またはB31とB32を使用すると、混信する場合がありますので同時に使用しないでください。
- アンテナ感度のリモートコントロールは、アンテナWX-4950A、4965、4970を直接接続した受信機、分配器のアンテナ感度スイッチ、フィールド選択スイッチにより、コントロールされます。
※75 Ω系の同軸ケーブル (5C-2V) を使用した場合でも、受信感度には影響ありません。

グループ・チャンネルを設定する



STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「●」の位置に合わせます。

STEP2

グループ・チャンネルを設定します

- グループ/チャンネル表示灯でグループ・チャンネルを確認しながら、グループ・チャンネル設定ボタンをマイクロホンに付属されているチャンネル設定

用小型ドライバーなどの先の細い物で押し、使用するワイヤレスマイクと同じグループ・チャンネルに設定します。

STEP3

チューナーユニット2のグループ・チャンネルを設定します。

- チューナーユニットを増設した場合は、チューナーユニット1と同様に設定します。

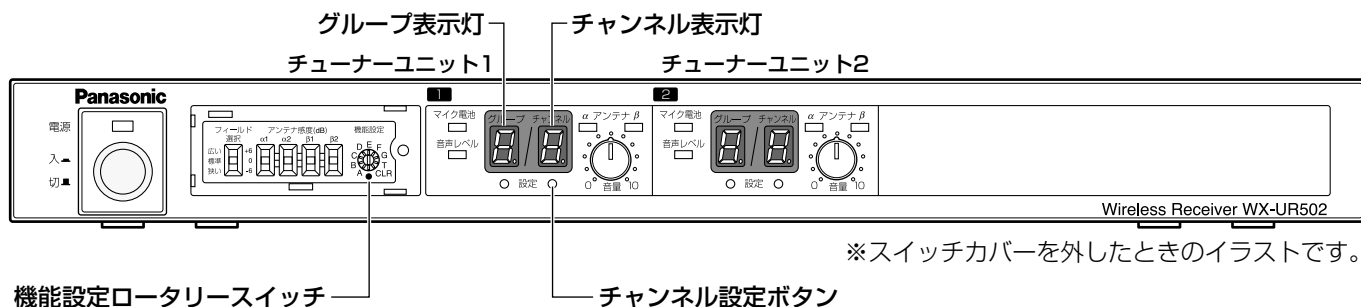
■受信周波数表

周波数 (MHz)	グループ						
	1	2	3	4	5	6	7 ※
806.125	B11						B71
806.250		B21					
806.375	B12						B72
806.500		B22					
806.625			B31				
806.750				B41			
806.875			B32				B73
807.000		B23					
807.125	B13						
807.250						B61	
807.375			B33				
807.500				B42			B74
807.625					B51		
807.750	B14						
807.875		B24					
808.000				B43			
808.125					B52		
808.250			B34				
808.375					B53		
808.500		B25					B75
808.625			B35				
808.750					B54		
808.875		B26					
809.000	B15						
809.125				B44			
809.250			B36				
809.375				B45			B76
809.500	B16						
809.625					B55		
809.750				B46			B77

※7波使用例

操作ロックを設定する

- 誤操作防止のため、グループ、チャンネルの設定をロックすることができます。
- 操作ロック機能が有効のときは、通常運用モードでグループ設定ボタンやチャンネル設定ボタンを押しても、グループ・チャンネルを変更することはできません。このとき、グループ表示灯とチャンネル表示灯が約1秒間点滅し、操作ロックが有効に設定されていることを通知します。



STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「A」の位置に合わせます。

- 操作ロック機能設定モードになり、グループ表示灯に **A** が表示されます。

STEP2

チャンネル設定ボタンで操作ロックを設定します。

- チャンネル設定ボタンを押すごとに、「有効」⇔「解除」で操作ロック設定が切り換わります。

操作ロック	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
操作ロック有効	A		● 通常運用モードでのグループ設定ボタン、チャンネル設定ボタンの操作が無効となり、グループ、チャンネルの変更ができなくなります。
操作ロック解除	A		● 通常運用モードでのグループ設定ボタン、チャンネル設定ボタンの操作が有効となり、グループ、チャンネルを変更することができます。

- 工場出荷設定は、「操作ロック解除」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。

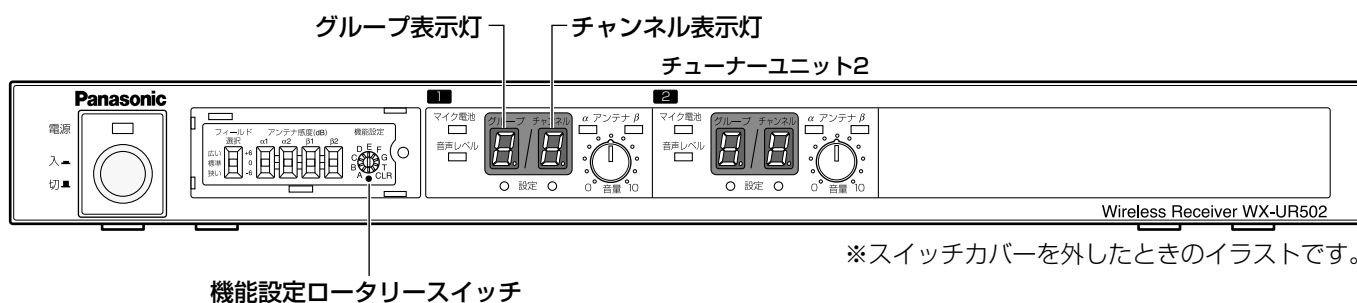
STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

- 通常運用モードに戻り、設定内容が反映されます。

マイク電池電圧を表示する

- マイク電池電圧機能に対応したワイヤレスマイク（2012年8月現在WX-4800のみ）からの電波を受信している場合に、グループ表示灯とチャンネル表示灯にマイク電池電圧を表示します。



STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「B」の位置に合わせます。

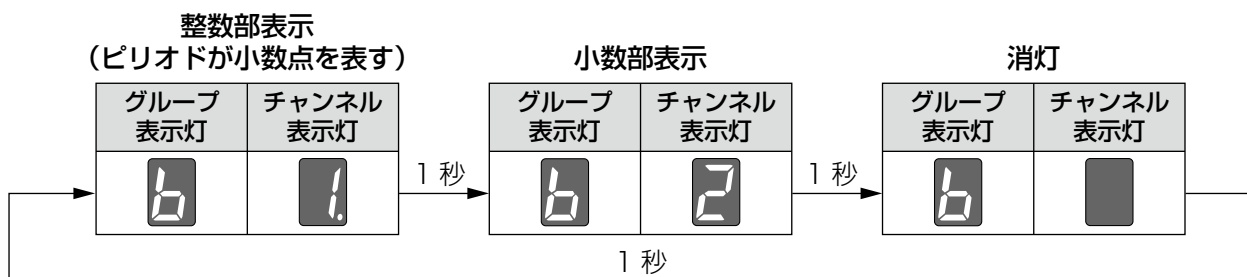
- マイク電池電圧表示モードになり、グループ表示灯に **6** が表示されます。

STEP2

グループ表示灯、チャンネル表示灯で電池電圧を確認します。

- マイク電池電圧表示は小数点第一位まで確認することができます。
- 電圧値はチャンネル表示灯に表示され、1秒ごとに値が変わります。（整数部表示→小数部表示→消灯）
- チャンネル表示灯のピリオドが点灯しているときは、電池電圧の整数部であることを表示しています。

例) マイク電池電圧が1.2Vのときの表示



- 電池電圧機能に対応していないワイヤレスマイクの電波を受信している場合や、受信機が電池電圧データを受信していない場合は、下記の表示となります。

グループ表示灯	チャンネル表示灯
6	

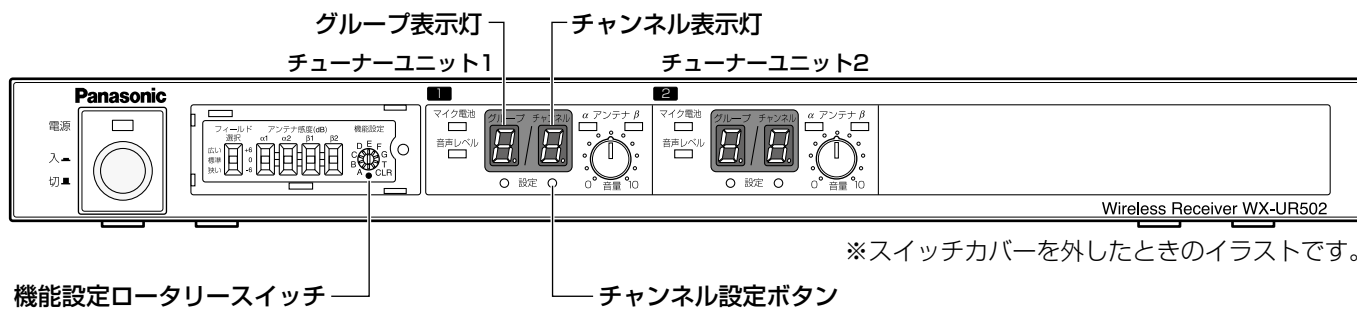
STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

- 通常運用モードに戻ります。

待機時混信低減機能を設定する

- 受信待機中、遠方からの電波を瞬時受信してしまうような混信は、待機時混信低減機能を設定することにより、回避することができます。



STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「C」の位置に合わせます。

- 待機時混信低減設定モードになり、グループ表示灯に が表示されます。

STEP2

チャンネル設定ボタンで感度切換レベルを設定します。

- チャンネル設定ボタンを押すごとに、「6 dB」→「12 dB」→「解除」の順に設定が切り換わります。

感度切換レベル	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
12 dB設定			<ul style="list-style-type: none"> ●受信待機中の受信感度を約12 dB下げ、弱く飛び込む混信を回避します。 ●一度受信すると、受信が途切れるまで受信感度は通常レベルに戻ります。 ●6 dB設定よりも効果的に混信を低減します。
6 dB設定			<ul style="list-style-type: none"> ●受信待機中の受信感度を約6 dB下げ、微弱に飛び込む混信を回避します。 ●一度受信すると、受信が途切れるまで受信感度は通常レベルに戻ります。
解除			<ul style="list-style-type: none"> ●待機時混信低減機能は解除されます。 ●通常の受信感度で動作します。

- 工場出荷設定は、「6 dB設定」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。

STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

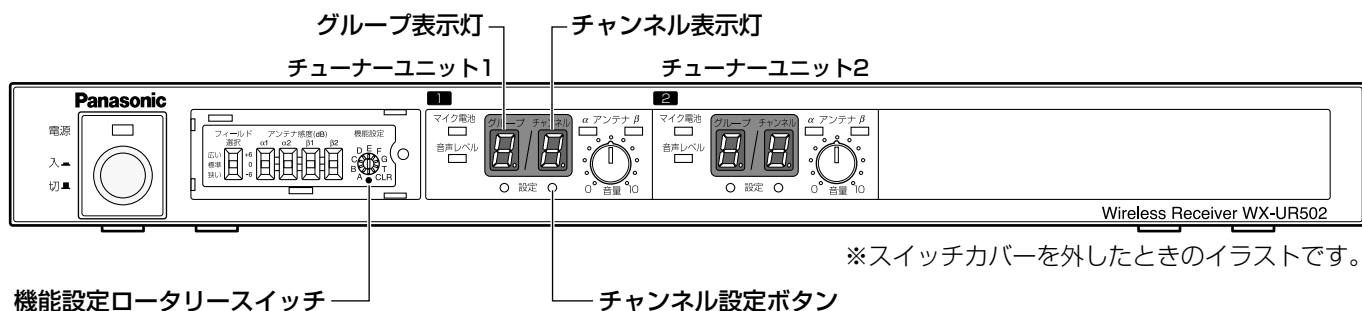
- 通常運用モードに戻り、設定内容が反映されます。

メモ

- 待機時混信低減機能を設定し、受信感度を下げた状態で混信波を受信してしまった場合は、受信感度が通常レベルになり受信します。受信が途切れることで、再度受信感度が下がります。
- 混信波を頻繁に受信してしまう場合は、フィールド選択スイッチ・アンテナ感度スイッチで受信感度を下げ、調節してください。(P.13ページ)

受信時混信低減機能を設定する

- 受信中、隣接した部屋の異なる周波数のマイク音を受信してしまうような混信は、受信時混信低減機能を設定することにより、回避することができます。
- 受信時混信低減機能は受信中の高周波レベルに応じてアッテネート量を自動制御し、近隣のワイヤレスシステムとの干渉を防ぎ、高周波歪みによる混信を低減します。



STEP 1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「D」の位置に合わせます。

- 受信時混信低減設定モードになり、グループ表示灯に が表示されます。

STEP 2

チャンネル設定ボタンでアッテネート量を設定します。

- チャンネル設定ボタンを押すごとに、 「20 dB」 → 「10 dB」 → 「解除」の順に設定が切り換わります。

制御開始レベル	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
10 dB			<ul style="list-style-type: none"> ● 受信中の高周波レベルがスケルチレベルより約10 dB以上高い場合に、そのレベルに応じて0 dB ~ 28 dBの範囲（4 dB刻み）でアッテネート量を自動制御します。（音声にノイズが混じることがあります。） ● 20 dB設定よりも効果的に混信を低減します。
20 dB			<ul style="list-style-type: none"> ● 受信中の高周波レベルがスケルチレベルより約20 dB以上高い場合に、そのレベルに応じて0 dB ~ 28 dBの範囲（4 dB刻み）でアッテネート量を自動制御します。
解除			<ul style="list-style-type: none"> ● アッテネート量を制御しません。

- 工場出荷設定は、「20 dB」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。

STEP 3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

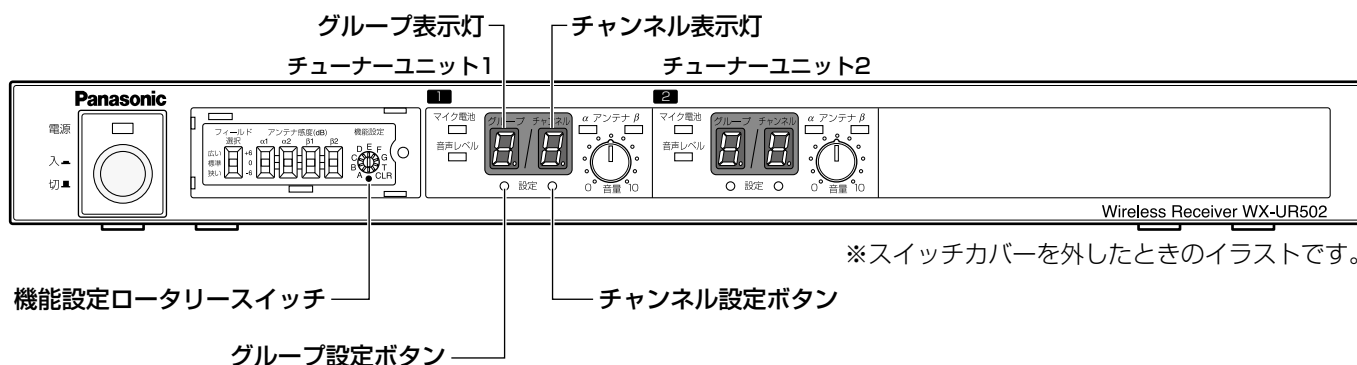
- 通常運用モードに戻り、設定内容が反映されます。

メモ

- 本機能を有効にすることにより音切れが頻繁に発生する場合は、設定を一段階下げてください（10 dB設定の場合は20 dB、20 dB設定の場合は解除）。

受信レベルを確認する

- 電波受信状態を確認する機能です。
- ワイヤレスマイクからの受信状況を確認でき、マイク使用位置とアンテナの設置状態の良否を設置作業時に確認することができます。
- アンテナα、アンテナβそれぞれの受信レベルを同時に3段階で表示します。
- グループ表示灯にアンテナαの受信レベル、チャンネル表示灯にアンテナβの受信レベルを表示します。
- 受信レベル表示機能には、リアルタイム計測モード、最大最小レベル計測モードの2種類があり、最大最小レベル計測モードではグループ設定ボタンを押してから再度グループ設定ボタンを押すまでの期間の最大/最小レベルを計測し、あとからそれぞれのレベルを確認することができます。



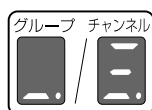
STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「E」の位置に合わせます。

- 受信レベル表示モードになり、グループ表示灯にアンテナαの受信レベル、チャンネル表示灯にアンテナβの受信レベルが表示されます。

受信レベル	グループ/チャンネル表示灯の内容	状態
電波なし		<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤレスマイクから電波を受信していません。 ●システムの設定を確認してください。
電波弱		<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤレスマイクからの電波受信レベルが弱い状態です。 ●フィールド選択スイッチ・アンテナ感度スイッチで受信感度を上げ、受信レベルを調節してください。
電波良好		<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤレスマイクからの電波受信レベルが良好な状態です。
電波強		<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤレスマイクからの電波受信レベルが強い状態です。 ●フィールド選択スイッチ・アンテナ感度スイッチで受信感度を下げ、受信レベルを調節してください。

例) アンテナαの受信レベルが“電波弱”、アンテナβの受信レベルが“電波強”のときの表示は、以下のようになります。











メモ

- 本表示は目安の表示です。13ページの設定表を参考にフィールド選択スイッチ・アンテナ感度スイッチを調節し、音切れや混信が発生しないことをご確認ください。

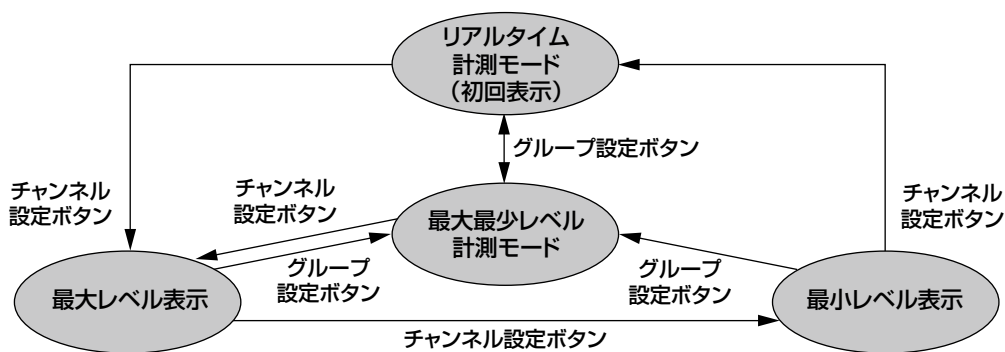
STEP2

必要に応じて各種表示を切り換えます。

- グループ設定ボタンやチャンネル設定ボタンを押すことで、計測モードや表示内容を切り換えることができます。

表示モード	表示灯の内容		状態
	グループ	チャンネル	
リアルタイム計測モード	 点灯	 点灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信レベルをリアルタイムに計測・表示するモードです。 ● グループ表示灯とチャンネル表示灯のピリオドが点灯します。 ● 機能設定ロータリースイッチを「E」に設定したときの最初の状態です。 ● グループ設定ボタンを押すと、「最大最小レベル計測モード」になります。 ● チャンネル設定ボタンを押すと、「最大レベル表示」状態になります。
最大最小レベル計測モード	 点滅	 点滅	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信レベルをリアルタイムに計測・表示し、かつ最大最小レベルを計測するモードです。 ● グループ表示灯とチャンネル表示灯のピリオドが点滅します。 ● グループ設定ボタンを押すと、「最大最小レベル計測モード」が終了し、「リアルタイム計測モード」になります。 ● チャンネル設定ボタンを押すと、「最大レベル表示」状態になります。
最大レベル表示	 点灯	 消灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 「最大最小レベル計測モード」で測定した結果の最大レベルを表示します。 ● グループ表示灯のピリオドが点灯します。 ● グループ設定ボタンを押すと、「最大最小レベル計測モード」になります。 ● チャンネル設定ボタンを押すと、「最小レベル表示」状態になります。
最小レベル表示	 消灯	 点灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 「最大最小レベル計測モード」で測定した結果の最小レベルを表示します。 ● チャンネル表示灯のピリオドが点灯します。 ● グループ設定ボタンを押すと、「最大最小レベル計測モード」になります。 ● チャンネル設定ボタンを押すと、「リアルタイム計測モード」になります。

グループ設定ボタン、チャンネル設定ボタンの操作で、状態は以下のように切り換わります。

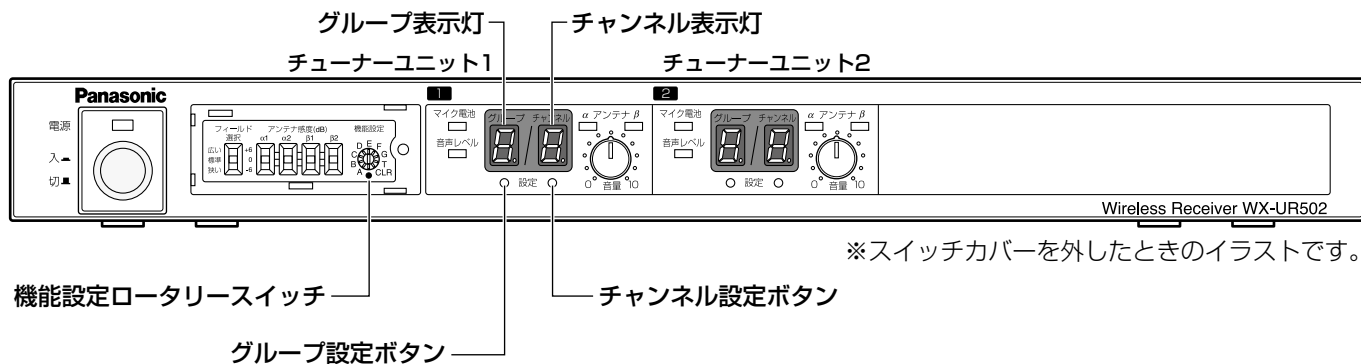


STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。
通常運用モードに戻ります。

受信状況を確認する（スキャン機能）

- ワイヤレスマイクシステムを運用する場所の電波環境を確認するために、設定されているバンド内の全グループと全チャンネルについて、自動的にチャンネルを切り換えながら、受信したグループおよびチャンネルを確認することができます。
- 電波がスケルチ条件（トーンを除く）を満たして受信されると、その周波数でスキャンが一時停止します。
- スキャン機能には、「グループスキャン」と「チャンネルスキャン」の2種類があります。



STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「F」の位置に合わせます。スキャンモードになり、グループ表示灯とチャンネル表示灯のピリオドが点滅します。



STEP2

グループ・チャンネルをスキャンします。

- グループ設定ボタンまたはチャンネル設定ボタンを2秒以上長押しします。
- グループ表示灯とチャンネル表示灯の数字が自動的に切り換わり、スキャン中に電波を受信すると、スキャンが一時停止されます。

スキャン	表示灯の内容		手順
	グループ	チャンネル	
グループスキャン	2 点滅	3	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ設定ボタンを2秒以上長押しします。 ●全グループについて、全チャンネルをスキャンします。スキャン中はグループ表示灯のピリオドが点滅します。
チャンネルスキャン	2	3 点滅	<ul style="list-style-type: none"> ●チャンネル設定ボタンを2秒以上長押しします。 ●設定されたグループ内の全チャンネルについてスキャンします。スキャン中はチャンネル表示灯のピリオドが点滅します。

- スキャンを手動で一時停止するには
 - ・グループ設定ボタンあるいはチャンネル設定ボタンを押します。
 - ・一時停止中は、表示灯のグループ・チャンネルで受信できます。
- スキャンを再開するには
 - ・グループ設定ボタンまたはチャンネル設定ボタンいずれかを2秒以上長押しします。

STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

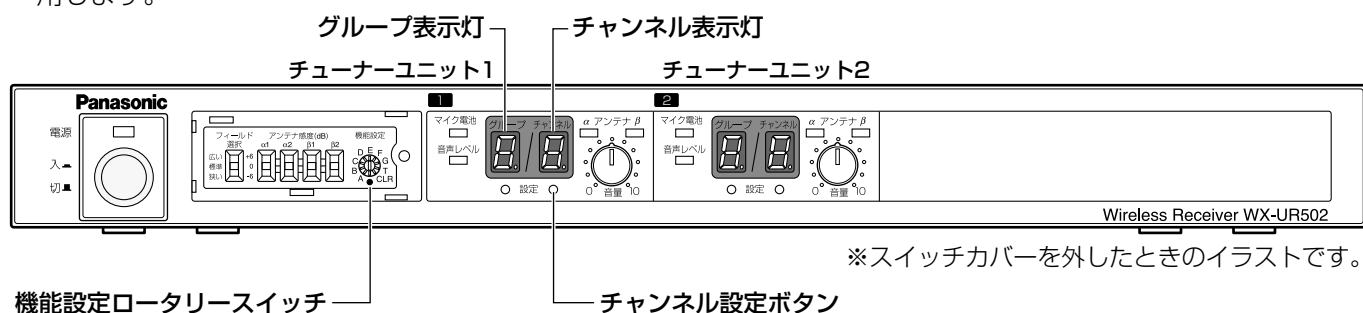
- 通常運用モードに戻ります。

メモ

- 電波の状況は刻々と変化するため、スキャン機能では一時的な状況しかとらえることができません。システム設置前の電波環境については、近隣のワイヤレスシステムの各設定を確認してください。
- 異なるグループでも同じ周波数を使っている場合、複数のグループでスキャンが一時停止します。例えば、B11のマイクの電源を入れた状態でグループスキャンを開始すると、B11とB71は使用している周波数が同じ（※15ページ）であるため、グループスキャンはB11とB71の両方で止まります。
- スキャン中および一時停止中はトーンスケルチ制御が動きません。マイク電源OFF時などにノイズが発生しますのでご注意ください。

スケルチを一時的に解除する

- 通常運用中に動作しているスケルチを一時的に強制解除します。
- 現在設定しているグループ・チャンネルが、他のマイクロホンに使用されているかどうかを確認する際に使用します。



重要

- ワイヤレスマイクの電源が切で、なおかつ本機のスケルチを強制解除にした場合、本機のチャンネル出力端子およびミキシング出力端子から過大なノイズが出力されます。
- 耳を痛める可能性がありますので、スケルチ設定を「通常」から「強制解除」に変更する場合、およびスケルチ強制解除の状態ワイヤレスマイクの電源を切る場合、またはマイクの電池を抜く場合は十分にご注意ください。

STEP 1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「G」の位置に合わせます。

- スケルチ解除モードになり、グループ表示灯に が表示されます。

STEP 2

チャンネル設定ボタンでスケルチ設定を切り換えます。

- チャンネル設定ボタンを押すごとに、「通常」⇔「強制解除」でスケルチ設定が切り換わります。

スケルチ設定	表示灯の内容		状態
	グループ	チャンネル	
スケルチ通常			<ul style="list-style-type: none"> ●通常運用モードと同じ状態です。 ●ワイヤレスマイクからの電波を受信している場合は通常運用モードと同様に音声出力され、受信していない場合は音声出力されません。 ●機能設定ロータリースイッチを「G」に設定したときに、最初に表示される状態です。
スケルチ強制解除			<ul style="list-style-type: none"> ●強制的にスケルチを解除している状態です。 ●ワイヤレスマイクからの電波を受信しているか否かにかかわらず、強制的に受信信号を出力します。電波がない場合は、過大なノイズが出力されます。

設定のしかた（つづき）

STEP3

機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

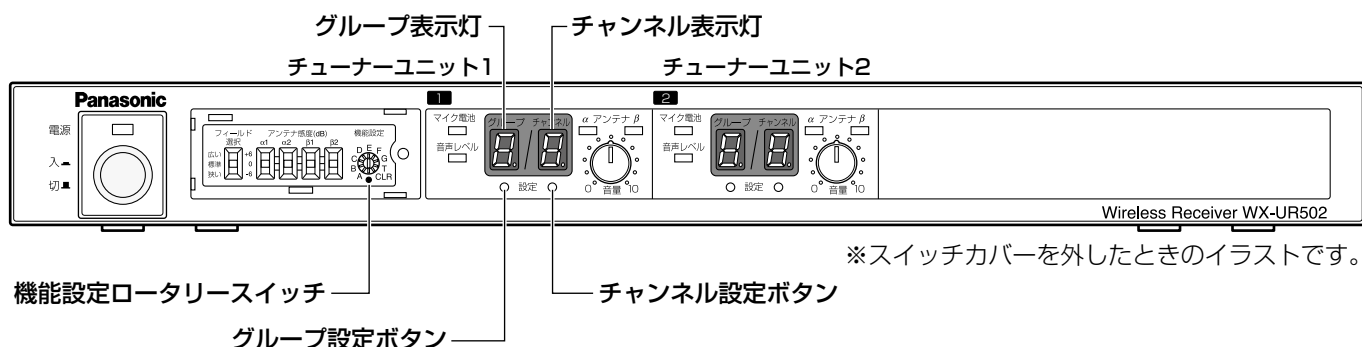
- 通常運用モードに戻ります。

メモ

- 本機の受信周波数と同じ周波数を送信するマイクロホンがある場合は、「スケルチ通常」の設定でも通常運用モードと同様に音声が出力されます。


工場出荷設定に戻す（メモリークリア機能）

- グループ・チャンネルの設定や各種設定を工場出荷状態に戻します。
- 初期化される項目は、以下の通りです。
 - グループ番号、チャンネル番号
 - 操作ロック設定
 - 待機時混信低減設定
 - 受信時混信低減設定




STEP1

スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを「CLR」の位置に合わせます。

- メモリークリアモードになり、グループ表示灯、チャンネル表示灯に  が表示されます。

STEP2

グループ設定ボタンとチャンネル設定ボタンを3秒以上同時に長押しします。

- 初期化が開始され、グループ表示灯、チャンネル表示灯のセグメントが円を描くように回転します。
- 初期化には約5秒かかります。
- 初期化が完了すると、 の表示に戻ります。

STEP3

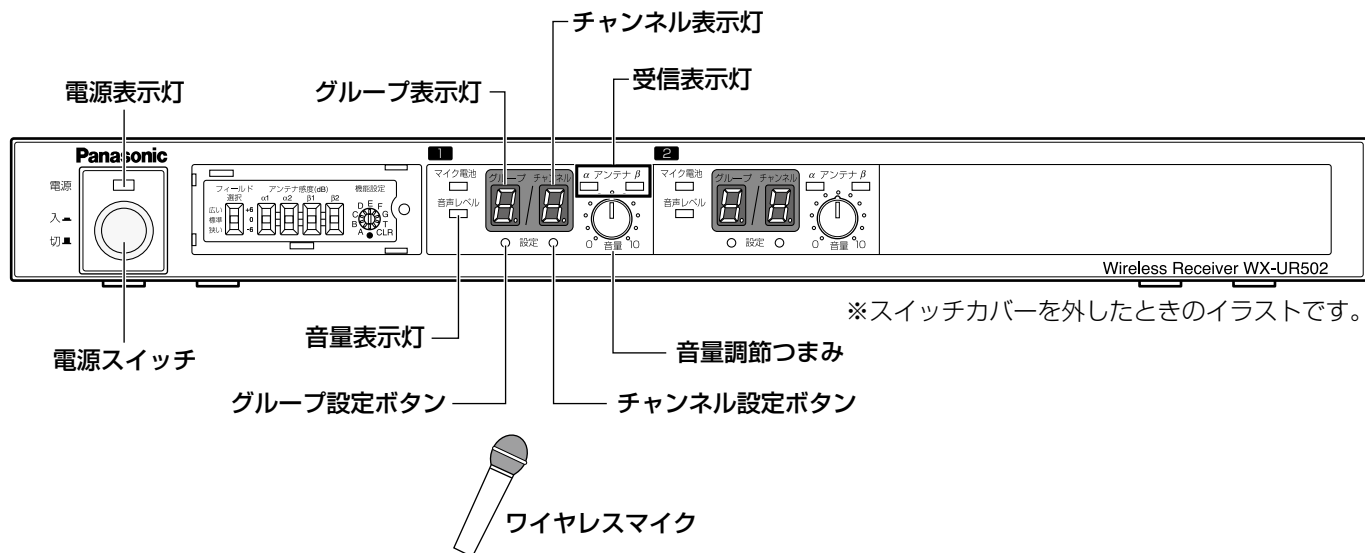
機能設定ロータリースイッチを「●」に戻します。

- 通常運用モードに戻ります。

使いかた

操作のしかた

以下の手順で使用します。



STEP1

電源スイッチを「入」にします。

- 電源表示灯が点灯します。

STEP2

グループ・チャンネルを設定します (P.14ページ)。

- グループ表示灯でグループを確認しながら、グループ設定ボタンを押してワイヤレスマイクと同じグループにします。
- チャンネル表示灯でチャンネルを確認しながら、チャンネル設定ボタンを押してワイヤレスマイクと同じチャンネルにします。

STEP3

ワイヤレスマイク (別売品) の電源スイッチをオンにします。

- 受信表示灯が点灯します。
- ワイヤレスマイクに音声を入力すると、音量表示灯が点灯します。

STEP4

音量を調節します。

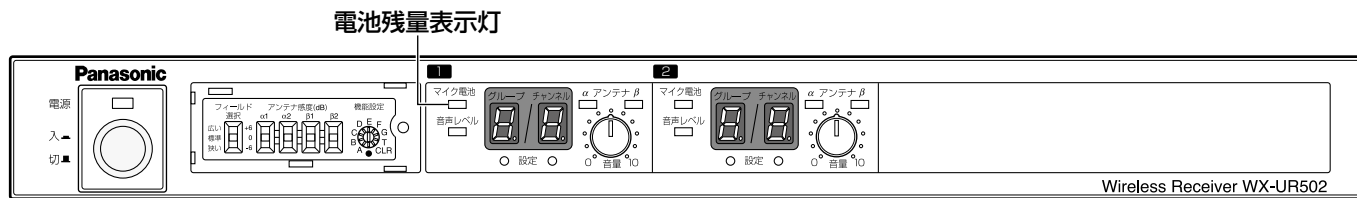
- 音量調節つまみを調節して、好みの音量に調節します。

メモ

- ワイヤレスマイクのグループ、チャンネル設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

マイク電池残量を確認する

ワイヤレスマイクからの電池残量を示すデータを受信すると、電波を受信しているワイヤレスマイクの電池残量を3段階（消灯＝データなし）で表示します。



※スイッチカバーを外したときのイラストです。

受信機の電池残量表示と、ワイヤレスマイク側の電池残量の目安は以下のようになっています。（常温25℃連続使用）

●パナソニック製 単3形マンガン乾電池 R6P (NB) 使用の場合

マイクの表示	電池残量の目安	受信機の表示	電池残量の目安
赤色点灯	使用可能 (新品電池にて10時間以上)	→ 緑色点灯	約10時間から約3時間以上
		→ 橙色点灯	約3時間未満
赤色 遅い点滅	残量なし ※	→ 赤色点灯	残量なし ※
		消灯	情報なし

●パナソニック製 単3形アルカリ乾電池 LR6 (PG) 使用の場合

マイクの表示	電池残量の目安	受信機の表示	電池残量の目安
赤色点灯	使用可能 (新品電池にて25時間以上)	→ 緑色点灯	約25時間から約5時間以上
		→ 橙色点灯	約5時間未満
赤色 遅い点滅	残量なし ※	→ 赤色点灯	残量なし ※
		消灯	情報なし

●専用充電電池パック WX-4451 (別売品) 使用の場合

マイクの表示	電池残量の目安	受信機の表示	電池残量の目安
赤色点灯	使用可能	→ 緑色または橙色点灯	使用可能
赤色 遅い点滅	残量なし ※	→ 赤色点灯	残量なし ※
		消灯	情報なし

※残量なし：新品乾電池または満充電の充電電池と交換してください。

メモ

- 電池残量データを送信できるワイヤレスマイクロホンは、WX-4□□□B,Cシリーズ、4600、4700、4800（すべて別売品）です。他のワイヤレスマイクロホンでは、電池残量データを送信することはできません。
- 受信が途切れると電池残量表示はリセットされ、表示灯は消灯しますが、再度データを受信すると再点灯します。
- 電池残量（寿命）は、電池のメーカー・種類・使用時の温度などによって異なります。
- 専用充電電池パックWX-4451（別売品）を使用した場合、乾電池使用時に比べて赤色点灯時間が短くなりますので、赤色が点灯したら早めに充電してください。

多チャンネル運用について

■多チャンネル（8～15波）同時使用の条件

以下の条件で使用した場合、1つの空間でワイヤレスマイクを同時に最大15波まで使用できます。

●対応機種（2012年8月現在のものです）

- ワイヤレスマイク WX-4100B、4212C、4300B、4360B、4370B、4600、4700、4800
- ワイヤレス受信機 WX-UR502、UR504（WX-UD500を含む）
- 混合分配器 WX-4910
- ワイヤレスアンテナ WX-4950A、4965、4970

●フィールド選択スイッチの設定

受信機、混合分配器のフィールド選択スイッチは、「狭い」のポジションでご使用ください。

推奨同軸ケーブル		※5D-2V		※8D-FB	
同軸ケーブル長		30 m	50 m	60 m	100 m
フィールド選択	アンテナ感度	使用範囲（アンテナマイク間の距離）		使用範囲（アンテナマイク間の距離）	
狭い	+6 dB	1 m～18 m	1 m～9 m	1 m～18 m	1 m～9 m
	0 dB	1 m～15 m	1 m～7 m	1 m～15 m	1 m～7 m
	-6 dB	1 m～8 m	—	1 m～8 m	—

- 上記の使用範囲は、ワイヤレスマイクWX-4100B：15本、アンテナWX-4950A：4本、混合分配器WX-4910：1台、受信機WX-UR504：4台（WX-UD500を7台増設）でシステムアップした場合の例です。
- 実働試験により音切れが多く発生する場合は、アンテナ感度スイッチのポジションを1ポジション上げてください。[例] -6 dB→0 dB

※75Ω系の同軸ケーブル（5C-2V、7C-FV）を使用した場合でも、受信感度に影響はありません。

■チャンネルの設定

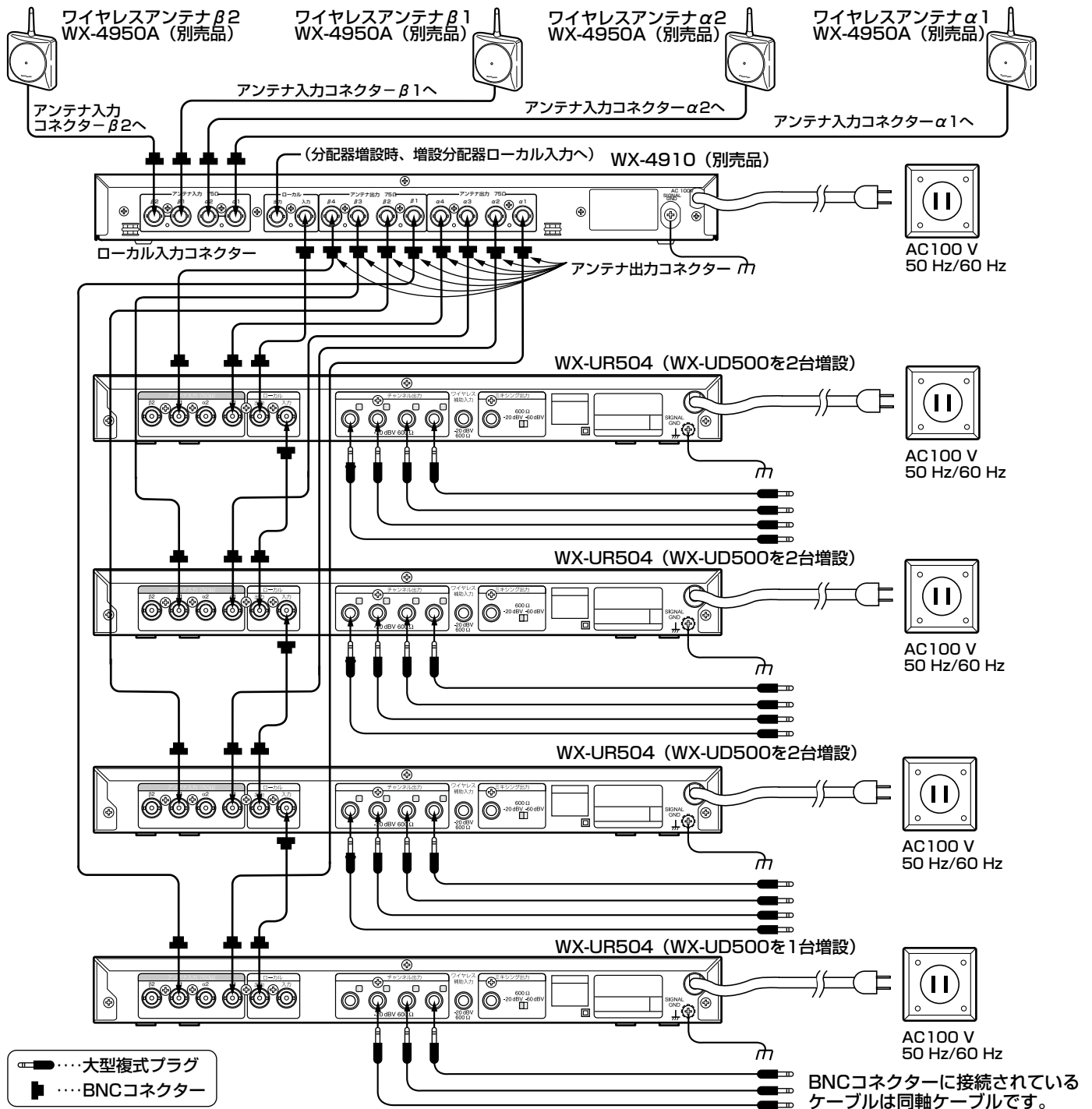
- 同時に使用するマイクは、同グループ（下表の白または青）・異チャンネルにしてください。
- 15波用対比表ラベル（付属品）をスイッチカバーに貼ると、グループ・チャンネルの設定時に便利です。

15波用白グループ対比表			15波用青グループ対比表		
チャンネル	G / CH	周波数 (MHz)	チャンネル	G / CH	周波数 (MHz)
1	B11	806.125	1	B21	806.250
2	B12	806.375	2	B22	806.500
3	B31	806.625	3	B41	806.750
4	B32	806.875	4	B23	807.000
5	B13	807.125	5	B61	807.250
6	B33	807.375	6	B42	807.500
7	B51	807.625	7	B14	807.750
8	B24	807.875	8	B43	808.000
9	B52	808.125	9	B34	808.250
10	B53	808.375	10	B25	808.500
11	B35	808.625	11	B54	808.750
12	B26	808.875	12	B15	809.000
13	B44	809.125	13	B36	809.250
14	B45	809.375	14	B16	809.500
15	B55	809.625	15	B46	809.750

多チャンネル運用について (つづき)

■接続例 (15波ダイバシティ受信方式の場合)

WX-4950Aを4本、WX-4910を1台、WX-UR504を4台 (WX-UD500を7台増設) 使用した例



必要なき

メモ

- 13ページ表内の使用範囲はWX-4100Bを使用したときの値です。他のマイクを使用した場合10%~20%使用範囲が狭くなります。また、混合分配器を使用しアンテナを増設した場合にもアンテナ2本ごとに10%程度使用範囲が狭くなります。
- アンテナは、ワイヤレスマイクから直視できる位置に設置してください。ワイヤレスマイクとアンテナ間に人体や壁などがあると使用範囲が短くなります。
- 使用できるフィールド選択スイッチのポジションは「狭い」のみです。「標準」「広い」のポジションで使用すると混信します。
- 使用範囲は使用される環境などにより、多少変動します。

アンテナ用フィルターについて

電灯器具など電気機器の電源スイッチを操作したときに発生するノイズがアンテナから入力される場合は、専用のアンテナ用フィルター(別売品)をアンテナ⇄ワイヤレス受信機間に取り付けることによってノイズを低減できます。接続のしかたは、アンテナ用フィルター(別売品)の説明書をお読みください。

アンテナ用フィルター品番	備考
W2-CHX50 ※	WX-4950A用
W2-CHX60	WX-4965、WX-4970用

※屋外に設置するアンテナには取り付けられません。防塵、防水効果が弱まり故障の原因となります。

故障かな!?

修理を依頼される前に、以下の内容をご確認ください。

確認してもなお異常があるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。

症 状	確認していただく内容	参照ページ
電源スイッチを「入」にしても、電源が入らない	●電源プラグが、コンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。	—
受信しない	●ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか。 ●ワイヤレスマイクの充電電池／乾電池は消耗していませんか。 ●受信するグループおよびチャンネルは、ワイヤレスマイクと同じですか。	14、26
チューナーユニット2が受信しない (WX-UR502) チューナーユニット3、4が受信しない (WX-UR504)	●チューナーユニットWX-UD500(別売品)を増設していますか。 増設していない場合、グループ・チャンネル表示灯は消灯状態です。	10
グループまたはチャンネルの切り換えができない	●操作ロック設定を確認してください。操作ロックが有効になっているときは解除してからグループ・チャンネルを設定してください。	16

必要なとき

仕様

	WX-UR502	WX-UR504
電源	AC 100V 50 Hz / 60 Hz	
消費電力	8 W (電源 [切] 時 0.5 W)	10 W (電源 [切] 時 0.5 W)
アンテナ入力	50 Ω 2系統 2回路 BNCコネクタ、ローカル出力 WX-4950A / WX-4965 / WX-4970用ファンタム電源出力 DC12 V 80 mA最大	
ローカル入出力	50 Ω BNCコネクタ 45 MHz	
受信周波数	30波中 1波 WX-UD500を1台増設で2波受信可能	30波中 2波 WX-UD500を2台増設で4波受信可能
受信方式※	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度※	45 dB以上 (20 dB μ V入力、5 kHz FMにて)	
スケルチ感度※	12 dB μ V以下	
トーンスケルチ周波数	32.768 kHz	
S / N	チャンネル出力 : 60 dB 以上 (50 dB μ V入力、5 kHz FMにて) ミキシング出力 : 54 dB 以上 (50 dB μ V入力、5 kHz FMにて)	
ダイバシティ切り換え雑音	40 dB 以上 (50 dB μ V入力にて)	
ひずみ率	3 % 以下 (50 dB μ V入力、40 kHz FMにて)	
周波数特性	50 Hz ~ 10 kHz (50 μ sエンファシス)	
最大出力	+10 dB (0 dB=1 Vrms)	
残留雑音	30 μ V以下	
フィールド選択※	広い / 標準 / 狭い	
アンテナ感度※	+6 dB / 0 dB / -6 dB (各アンテナ入力ごとに設定可能)	
制御方式	トーン信号によるASK	
電池残量表示	3段階 (緑色 / 橙色 / 赤色) (消灯=データなし)	
音声レベル表示	3段階 (緑色 / 橙色 / 赤色) (消灯=音声なし)	
機能設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常運用 ● 操作ロック設定 : グループ番号、チャンネル番号ロック ● マイク電池電圧表示 : 2012年8月現在、WX-4800のみ対応 ● 待機時混信低減設定 : 解除 / 6 dB設定 / 12 dB設定 ● 受信時混信低減設定 : 解除 / 20 dB / 10 dB ● 受信レベル表示 : 3段階 ● スキャン : グループスキャン / チャンネルスキャン ● スケルチ解除 : 通常 / 強制解除 	
ワイヤレス補助入力	-20 dBV 600 Ω 不平衡	
チャンネル出力	-20 dBV 600 Ω 不平衡 2回路	-20 dBV 600 Ω 不平衡 4回路
ミキシング出力	-20 dBV / -60 dBV (切換式) 600 Ω 不平衡	
使用温度範囲	0 °C ~ +45 °C	
寸法	幅 420 mm 高さ 44 mm (ゴム足含まず) 奥行き 176 mm (つまみなど突起含まず)	
質量	約2.1 kg	約2.2 kg
仕上げ	前面パネル : AVライトグレー色 塗装 カバー : AVライトグレー色 塗装	

※アンテナ WX-4950A、WX-4965、WX-4970による

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電 話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(29ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	ワイヤレス受信機
●品 番	WX-UR502, WX-UR504
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

必要なとき

保証とアフターサービス（つづき）

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像や音*が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検**や**撤去**を依頼してください。


※：音声対応していないモデルもあります。

施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号